

第3学年 社会科学学習指導案

3年2組 男子22名 女子18名 計40名

指導者 清水 暁子

【授業】13:30～14:20 会場 3年2組教室(4階)

【協議会】14:30～15:20 会場 第一研修室(1階)

1 単元名 民主政治と政治参加－選挙の課題－

2 単元について

(1) 単元設定の趣旨

本単元は、平成29年告示の中学校学習指導要領の公民的分野の大項目「C 私たちと政治」、中項目(2)「民主政治と政治参加」にあたる。民主主義や民主政治の意義について理解を深めるとともに、イ(ア)「民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現する」力を身に付けることをねらいとする。

社会科の目標は「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎」を育成することである。本単元は、特に「平和で民主的な国家及び社会」とは何かということについて生徒により深く考えさせたい単元であり、民主主義や民主政治への理解を深めることは、社会科で身に付けるべき資質・能力を育む上で必要不可欠であると考えられる。

議会制民主主義の形態を採る日本において、民主主義の実現のために重要なのが選挙によって国民の意見を政治に反映させることである。しかし、我が国において度々問題視されてきたのが投票率の低さ、とりわけ若年層の投票率の低さである。世界の中でも投票率が高いことで知られるオーストラリアやベルギーは投票を国民の義務としており、投票に行かなかった場合には罰金等のペナルティを科している。アメリカの政治学者であるレイプハルト(A. Lijphart)は、投票率の低さを「深刻な民主主義上の問題」とした上で、「強制的投票制度 compulsory voting」を主張した。(1996年アメリカ政治学会大会)レイプハルトによると、この制度は投票率向上の有効な対応策となるとともに、①他の政治参加の形態に対しても刺激を与えることが期待され、政治への関心も高めること、②政治における資金の役割の低下が起こること、③相手にダメージを与えようとするような攻撃的宣伝の手法が功を奏さなくなることの3つのメリットがあるという。しかし、強制的投票制度を採るオーストラリアやベルギーは投票率こそ高いものの、日本と比較して無効票の割合が大きいという事実がある。無効票の中には「罰金を払いたくないからとりあえず票は入れた」といった白票のような無責任な無効票も存在することが考えられる。また、有効票であったとしても投票した有権者が国の未来や政治についてどこまで真剣に考えて投じた票であるかは投票率の高さだけで測ることはできないのは明らかである。

投票率の高さだけが重要ではないとはいえ、日本における投票率の低さは看過できない。低投票率の問題に対して、レイプハルトの提案する強制的投票制度を導入することもまた方法の一つであるが、そのような方法は採らずに、有権者教育などを進める中で「政治的有効性感覚」を活性化する方向を模索するべきであるという意見がある（小野 2013 年）。この主張は、投票はあくまで民主主義の実現のための義務ではなく「権利」として自発的に行使されるべきであるという考えに基づく。「政治的有効性感覚」は次の 2 つ要素から構成される。

「政治的有効性感覚 sense of political efficacy」 クレイグ (S. C. Craig) ら 1990 年

- ・ 内的有効性感覚…「政治を理解し、そこに有効に effectively 参加することができる、という自己の能力への信念 belief」
→政治への関心があり、政治に対する理解力があること
- ・ 外的有効性感覚 …「政府と政治制度が有する、市民の要求に対する応答性 responsiveness への信念 belief」
→政治への信頼感があること

有権者が投票に行くことの意義を見出すには、有権者自身が政治に関心をもち、政治を理解していること（内的有効性感覚）や有権者の意見に政治が応えてくれるという信頼（外的有効性感覚）があることが前提となる。したがって、両者が低い状態（政治的有効性感覚の低下）こそが投票率低下の背景の一つであるという。投票を義務化することは投票率という数字を挙げることや政治への関心を高めるきっかけをつくることに貢献するかもしれない。しかし、政治的有効性感覚を向上させることは投票率の上昇に影響を与えるのみならず、選挙によって国民の意見を反映させるという議会制民主主義の意義そのものを高めるのではないかと考える。投票率の高さだけが民主主義の実現度合いを示す指標ではないことを理解し、政治とどのように向き合っていくべきなのか生徒に十分考えさせ、主体的な政治参加への意識が高まるような実践としたい。

また、政治的有効性感覚を向上させるための社会科授業における先行研究では、政治の仕組みをどのように理解するかということや地域社会の具体的な問題を取り上げて、住民の行動がいかに地方自治に影響を与えるかということを実感させる実践が数多く提案されてきた。しかし、それらは主に内的有効性感覚の点から論じられたものが多く、外的有効性感覚の点からの先行研究は少ない。その理由としては、政治への信頼感が高まるかどうか（外的有効性感覚）は政府や地方公共団体が施した政策への評価でもあり、生徒個人がどうにかできる問題ではないと捉えられているからではないだろうか。今回の実践では、政府への信頼感といった外的有効性感覚の点からも国民の政治参加について生徒に考えさせたい。

（２）生徒の実態

政治への関心が高く、普段からニュースや新聞をよく見て、疑問に思ったことは調べたり課題に対して自分の立場を明確にして意見を述べたりできる生徒が多い。また、総合的な学習の時間に平和と政治をテーマとして探求活動を行った生徒もいることや、衆議院議員選挙が行われたことから、全体として政治を学ぶことへの意欲が高まっている状態であると考えられる。一方で、政治についての知識の量には個人間で差があり、政治を

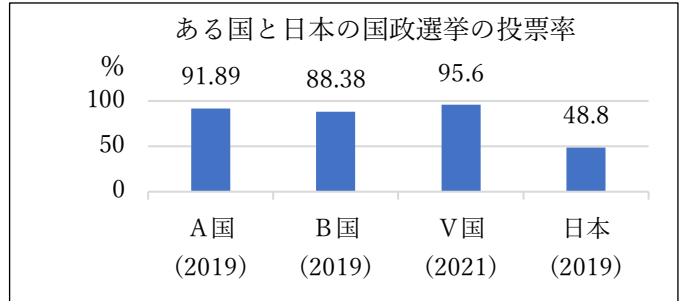
学ぶことの難しさや苦手意識を感じている生徒もいる。また、事前の調査結果から、単純に投票率が高いことは良いことで、低いことは良くないことであると考えている生徒が多いことが分かる。一方で、少数ではあるが日本の低投票率を肯定的に捉えたり、反対に他国の高投票率を問題視したりする生徒もいる。生徒一人一人が自分なりに民主主義や民主政治の意義への理解を深め、主体的に政治に参画するとはどういうことなのか、考えを深めさせたい。

[実態調査及びプリテスト]

質問1 資料から考えること。

質問2 民主主義が実現している国とはどのような状態の国か。

在籍数40名、回答者38名



※A国＝オーストラリア、B国＝ベルギー、V国＝ベトナム
調査時には国名を伏せている。

【実態調査】質問1の回答（複数回答）

(人数)

日本について

【低投票率を問題視する回答】

- ・日本は他国に比べて投票率が低い。(33)
- ・日本は他国に比べて政治への関心が低い。(19)
- ・国民の意思を取り入れるべきだ。(3)
- ・一部の人の意見しか反映されていない。(2)
- ・参政権があるのにもったいない。(2)
- ・日本は国民としての責任を果たしていない、消極的だ。(1)
- ・日本人は自分から行動を起こす人が少ない国民性だから、自分たちで国を変えていこうという意識が低い。(1)

【低投票率を肯定的に捉える回答】

- ・日本は平和で今のままでも幸せな国だから政治への関心が低い人が多い。だから、投票率が低くてもあまり悪いことではない。(1)

【その他の回答】

- ・日本には生死に関わる問題がないから投票率が低い。(2)
- ・選挙結果が自分たちの生活に大きく影響しないと思っているから投票率が低いのではないか。(1)
- ・候補者が競っていないから投票の意義を感じられないのではないか。(1)
- ・特定の政党が勝つことがわかりきっており、適当な候補者がいないから仕方がない。(1)
- ・日本で選挙が始まった当初の投票率は高かったのになぜ低くなってしまったのか。(1)

A・B・V国について

【高投票率を肯定的に捉える回答】

- ・A・B・V国は政治に関心のある国だ。(5)
- ・A・B・V国は国民の意見が反映される国だ。(5)
- ・A・B・V国には日本とは違い自由に開かれた選挙制度があるのではないか。(1)

【高投票率を問題視する回答】

- ・A・B・V国の国民が自分の意思とは別に投票していたとしたら良くない。(1)
- ・A・B・V国の投票率が高いのは今の国をもっと良くしたいと思う人が多く、政治への関心や期待が大きいのであまり幸せな国とは言えない。(1)

<p>【その他の回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ、A・B・V国は投票率が高いのか。(6) ・A・B・V国は投票率を上げるためにどんなことをしているのか。(2) ・A・B・V国は投票を義務化しているのではないだろうか。(2) ・他国は選挙が大きなイベントのようになっている。(1) 	
<p>【プリテスト】質問2の回答(複数回答)</p>	(人数)
<p>【国民や自分自身に関する回答】(内的な要因)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国民の意見が政治に反映されている国。(16) ・国民としての自覚や意見を持ち、政治に積極的に参加する国。(8) ・国民が意見を伝える機会がある国。(2) ・国民が政治に関心をもっている。(1) ・国民が不満をもっていない国。(1) <p>【政府や選挙制度に関する回答】(外的な要因)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国民の意見に耳を傾ける政府がある国。(2) ・特定の人が権力を握っていない国。(2) ・政府が国民から信頼されるような政治を行う。(1) ・ちゃんとした選挙で選ばれたちゃんとした政治家が政治を行う国。(1) ・多くの国民から選ばれた人が政治を行う。(4) ・国民の意見を取り入れようとする人が政治家となり、そのような人を国民が選べること。(1) ・少数派の意見が聞き入れられる国。(1) <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・投票率の高い国。(3) ・ほとんど(または全員)が選挙に行っている国。(2) ・差別のない国。(2) ・多数決や全会一致で決定する国。(1) ・経済格差のない国。(1) ・政治に関する内容が隠されたり歪められたりせず伝わる。(1) ・無回答(1) 	

(3) 指導の構え

本単元で、日本の低投票率の問題を取り扱うにあたっては、富山県知事選挙や衆議院議員総選挙といった生徒にとって身近な事例を取り上げることで学習課題への関心を高める。富山県知事選挙の投票率が前回より大きく上昇した理由や諸外国の選挙制度と比較して日本が投票を義務化しない理由を考える活動を通じて、投票行動の要因や投票の意義に気付かせたい。また、「なぜ」に対する問いに答えるにあたっては、既習事項である「効率と公正」等の現代社会の見方・考え方を働かせ、根拠を明確にして考えを主張できるように発問や指示を工夫したり板書に位置付けたりしたい。

3 「見方・考え方」を働かせ、「深い学び」を実現する授業づくり

本単元で「深い学び」が実現している状態は次の図の通りである。

「知識の構造図と発問の構造図」



「社会的見方・考え方の成長過程図 (知識の構造図)」

「発問の構造図」

4 単元の目標

【知識・技能】

- ・ 議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方について理解することができる。
- ・ 民主政治の仕組みについて、資料を適切に選択し、読み取ったことを活用することができる。

【思考・判断・表現】

- ・ 民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について、課題を設けて追究したり意見交換したりして、資料をもとに多面的・多角的に考察し、公正に判断してその過程や結果を適切に表現することができる。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・ 民主政治に対する関心を高め、意欲的に追究して民主政治の意義を見出そうとしている。
- ・ よりよい社会の実現のため、主権者としての自覚を深め、主体的に政治に参画することについての自分なりの考えを深めている。

5 全体計画（全3時間）

第1次 なぜ、富山県知事選挙の投票率は前回と比較して大きく上昇したのだろうか。

【獲得される知識・概念】

・・・・・・・・・・1時間

- ・ 政治への関心が高く政治の出来事についての理解があり（内的有効性感覚）、有権者の意見を政治が聞き入れてくれるという政治への信頼がある（外的有効性感覚）時（政治的有効性感覚が向上している状態）は、有権者に投票への意義を実感させ、投票行動に影響を与える。
- ・ 投票という行動に対してかかる「費用（コスト）」よりも「見返り（便益）」がある時、人は投票しようとする行動する。（インセンティブ）

第2次 なぜ、日本は投票を義務化しないのだろうか。

【獲得される知識・概念】

・・・・・・・・・・2時間（2／2本時）

- ・ 義務化しただけでは、白票などの無効票や、政治への関心も知識もなく適当に投じられた票（無駄）が増える。**効率**
- ・ 無駄な票が増える可能性があるため、国民の意見が正しく選挙結果に反映されるとは限らない。**結果や機会の公正さ**
- ・ 憲法では国民の義務を納税・勤労・教育に限定しており、投票は思想・良心の自由等の基本的人権の一つとして捉えている。**人権**、**憲法**

過程	教師による発問・指示 (<u>学習課題</u>)	期待される生徒の反応や活動 (獲得される知識・概念)
【第一次】なぜ、富山県知事選挙の投票率は前回と比較して大きく上昇したのだろうか。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国民の政治参加について、日本の選挙にはどのような課題があるだろうか。 2. 何の数字だろうか。「55.93%」 3. 55.93%という数字は高いと思うか、低いと思うか。 4. 「35.34%(前回)→60.67%(今回)」何の選挙だろうか。 5. <u>なぜ、富山県知事選挙の投票率は前回と比較して大きく上昇したのだろうか。</u> <u>概念形成</u> 6. いくら注目度や関心が高くても選挙に行かない人もいる。選挙を棄権する人の理由はどのようなものだろうか。 7. 一般的にどのような時、投票率は上がるだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本は投票率が低く、政治への関心が低い。とくに若者の投票率が低い。 ・小選挙区では死票が多く、選挙区ごとに一票の価値が異なる。 ・先日行われた衆議院議員選挙の投票率。 ・低い。半分の人が選挙に行っていない状態では民主主義の国とは言えない。 ・高い。テレビで若い人向けの宣伝にも力を入れていたように感じるから、前回よりも高いと思う。 ・富山県知事選挙。 ・在職期間の長い現職候補と新人候補の争いが注目され、支援する政党内でも立場が分かれるなど、県民にとって関心が高い選挙だったから。 ・候補者の公約が時代のニーズに合っていたから。 ・そもそも選挙や政治に関心がないから。 ・適当な候補者も政党もなかったから。 ・「用事があった」などの理由は、期日前投票の制度などもあるので理由にならない。そうまでして投票に行く必要がないと考えているからではないか。 ・自分の一票が何かを変えるかもしれないと有権者が実感できる時。 ・政治への関心が高まっており、政治の出来事についての理解があるとき。(内的有効性感覚) … I ・有権者の意見を政治が聞き入れてくれるという政治への信頼があるとき。(外的有効性感覚) … II ・I・IIが高まっている状態(政治的有効性感覚の向上)が有権者に投票への意義を実感させ、投票行動に影響を与える。 ・投票という行動に対してかかる「費用(コスト)」よりも「見返り(便益)」がある時、人は投票しようとする行動する。(インセンティブ)

<p>【第二次】なぜ、日本は投票を義務化しないのだろうか。(1/2)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. オーストラリアやベルギー、ベトナムはなぜ投票率が高いのだろうか。 2. 日本も投票を義務化したらいいのではないか。 3. なぜ、日本は投票を義務化しないのだろうか。 4. 投票を義務化している国に問題はあるだろうか。 5. 義務化していないけれど投票率の高い国に問題はあるだろうか。 6. 義務化していないけれど投票率の高い国は他にありますか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・政治教育が盛んなど、政治への関心が高いのではないか。 ・投票を義務づけているのではないか。 ・義務化すれば安易な理由で棄権する人が減り、幅広い年代のより多くの国民の意見が反映される。(手続きの公正さ) ・義務化すれば投票率は確実に上昇するのに、日本はなぜ義務化しないのだろうか。 ・オーストラリアやベルギーは棄権すると罰金などのペナルティーが科される。 ・投票すれば罰金を払わなくてよく、白票などを含む無効票が多い。 ・ベトナムは共産党一党独裁の社会主義国家であり、選挙は形式化している。法律上は直接選挙を定めているが、家族などによる代理投票が横行している。(ベトナム) ・スウェーデンは義務化していないが、投票率が80%前後で、義務教育段階での有権者教育に力を入れている。
<p>か。【第二次】なぜ、日本は投票を義務化しないのだろうか。(2/2 本時)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. なぜ、日本は投票を義務化しないのだろうか。 概念形成 2. 日本の投票率が低いことが問題であることを前提で考えてきたが、そもそも投票率は高くないといけないのだろうか。 3. 義務化もしないのに、日本はなぜ投票率を上げようとしているのだろうか。投票率が高くて当選し 	<ul style="list-style-type: none"> ・義務化しただけでは、白票などの無効票や、政治への関心も知識もなく適当に投じられた票(無駄)が増える。(効率) ・無駄な票が増える可能性があるため、国民の意見が正しく選挙結果に反映されとは限らない。(結果や機会の公正さ) ・憲法では国民の義務を納税・勤労・教育に限定しており、投票は思想・良心の自由等の基本的人権の一つとして捉えている。(人権)、(憲法) ・投票率が低いということは現状でも十分満足しているということだから、悪いことではないのではないか。 ・強制されて投票に行くよりは低いままでもよいのではないか。 <p>【国民の立場から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・投票率が低いと一部の人の意見しか政治に反映されなかったり一部の人の利

	<p>た政治家と投票率が低くて当選した政治家の図を見て、何か考えることはあるか。</p> <p>4. 投票を義務化しない日本において、国民の政治参加の点から民主主義の実現のために大切なことは何だろうか。 価値判断</p>	<p>益を重視した政治が行われたりする。</p> <p>【政府・政治家の立場から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次の選挙でも当選するために、より多くの人々から信頼される言動をとろうとする。モチベーションも上がる。 ・ 政策を実現するために、より多くの人々の支持を得て実行できる。 ・ 自分の暮らす社会や地域の現在・将来に対して自分の意見をもつこと。そのために、日頃から政治に関心をもったり政治の出来事を理解したりすること。（政治への関心・理解…内的有効性感覚） ・ 政府が世論を反映させた政策を施し、国民が政治を信頼すること。信頼される政治であるためには、自らの意思で投票に行ったり、マスメディアから正しく情報を読み取って政治を評価したりして、自分の意見を届けること。（政治への信頼感…外的有効性感覚）
--	---	---

6 本時の学習（全3 / 3時間）

（1）指導目標

- ・ 日本が投票を義務化しないのは効率や公正の観点から問題があるということを理解することができる。 **【知識・技能】**
- ・ 投票を義務化しない日本において、国民の政治参加の点から民主主義を実現させるために大切なことは何か適切に表現することができる。 **【思考・判断・表現】**

（2）展開

学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点
<p>1 前時の活動を振り返る。 全体(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オーストラリアやベルギーのように投票を義務化すれば投票率は上がるのに、なぜ日本は義務化しないのだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 諸外国と日本の選挙の様子の違いに着目させ、学習課題への関心を高める。 ・ 前時までの資料をもとに、投票を義務化することで起こりうる問題や、投票の意義に着目できるよう問いかける。
<p>なぜ、日本は投票を義務化しないのだろうか。</p>	

<p>2 学習課題に対する考えを発表する。 小集団→全体(18)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 義務化しただけでは、白票などの無効票や、政治への関心も知識もなく適当に投じられた票（無駄）が増える。効率 ・ 無駄な票が増える可能性があるので、国民の意見が正しく選挙結果に反映されるとは限らない。結果や機会の公正さ ・ 憲法では国民の義務を納税・勤労・教育に限定しており、投票は思想・良心の自由等の基本的人権の一つとして捉えている。人権、憲法 <p>3 日本の投票率が低いことが問題であることを前提で考えてきたが、そもそも投票率は高くないといけないのか考える。全体(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 投票率が低いということは現状でも十分満足しているということだから、悪いことではないのではないか。 ・ 強制されて投票に行くよりは低いままでもよいのではないか。 <p>4 義務化もしないのに、日本はなぜ投票率を上げようとしているのか考える。小集団→全体(7)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 投票率が低いと一部の人の意見しか政治に反映されなかったり一部の人の利益を重視した政治が行われたりする。国民の立場 ・ 次の選挙でも当選するために、より多くの人々から信頼される言動をとろうとする。モチベーションも上がる。政府・政治家の立場 ・ 政策を実現するために、より多くの人々の支持を得て実行できる。政府・政治家の立場 <p>5 投票を義務化しない日本において、民主主義の実現のために大切なことは何か考える。個人→全体(17)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の暮らす社会や地域の現在・将来に対して自分の意見をもつこと。そのために、日頃から政治に関心をもったり政治の出来事を理解したりすること。（政治への関心・理解…内的有効性感覚） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人一人の発言の場を確保するため、全体での意見共有の前に小集団で意見交換するよう指示する。 ・ 「効率と公正」等の観点が明確になるよう板書に位置付ける。 <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本が投票を義務化しないのは効率や公正の観点から問題があるということを理解することができる。 ・ 挙手がなければ、事前の実態調査から、投票率が低いことを肯定的に捉えている生徒を意図的指名する。 ・ 投票率が高くて当選した政治家と投票率が低くて当選した政治家の図を見せ、視覚的にも分かりやすく低投票率の問題に気付けるようにする。 <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 投票を義務化しない日本において、国民の政治参加の点からで民主主義を実現させるために
--	---

<ul style="list-style-type: none"> ・ 政府が世論を反映させた政策を施し、国民が政治を信頼すること。信頼される政治であるためには、自らの意思で投票に行ったり、マスメディアから正しく情報を読み取って政治を評価したりして、自分の意見を届けること。(政治への信頼感…外的有効性感覚) 	<p>大切なことは何か適切に表現することができる。</p>
--	-------------------------------

(3) 学習評価の観点

- ・ 日本が投票を義務化しないのは効率や公正の観点から問題があるということを理解している。 【知識・技能】(発言・ノート記述)
- ・ 投票を義務化しない日本において、国民の政治参加の点から民主主義を実現させるために大切なことは何か適切に表現している。 【思考・判断・表現】(発言・ノート記述)

7 授業観察の視点

[学習者]: 生徒の思考はどのように変容したか。また、深まったか。

[授業者]: 民主主義の実現に不可欠な国民の政治参加について考えさせる授業構成として、学習課題、発問、資料提示、意見の取り上げ方などの手立ては適切であったか。また、どのようにすればよかったのか。

[主な参考文献]

【方法論】

- ・ 岡崎誠司『社会科の授業改善 1 見方考え方を成長させる社会科授業の創造』風間書房、2013年
- ・ 森分孝治『社会科授業構成の理論と方法』明治図書出版、1978年
- ・ 森分孝治・片上宗二編『社会科重要用語 300 の基礎知識』明治図書出版、2000年

【内容論】

- ・ 伊藤理史『日本人の政治的疎外意識—政治的有効性感覚のコーホート分析—』16巻、2017年 p. 15-28
- ・ 小野耕二『「投票率」をめぐる問題状況と対応策への政治学的視角』『名古屋大學法政論集』248巻、2013年 p. 378-349
- ・ 坂田大輔『主権者意識を涵養する学習指導の在り方—政治とのつながり、政治に参加する必要性を実感する社会科学習—』30巻、2020年 p. 1-22
- ・ 砂原庸介『民主主義の条件』東洋経済新報社、2015年
- ・ 山本昭宏『戦後民主主義—現代日本を創った思想と文化—』中央公論新社、2021年
- ・ 明るい選挙推進協会HP「衆議院議員選挙」2021年10月17日閲覧
<http://www.akaruisenkyo.or.jp/>
- ・ International IDEA (国際民主主義・選挙支援研究所) HP「投票率データベース」2021年10月17日閲覧
<https://www.idea.int/data-tools/world-view/40>
- ・ NHK選挙WEB「選挙を知ろう」
<https://www.nhk.or.jp/senkyo/chisiki/ch18/20160318.html>
- ・ VERAC Company Limited HP「ベトナムの選挙制度」2021年10月23日閲覧
<https://life.viet-jo.com/howto/basic/357>
- ・ VERAC Company Limited への聞き取り調査 2021年11月